令和５年度　授業改善推進プラン

東久留米市立第三小学校　第3学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 （数値等で具体的に示す）	具体的な授業改善策及び目標値 （数値等で具体的に示す）
国語	・文章を正しく読み取れず、誤読したり、読み取ったことを言語化できない場合があり、概ね正しく読解できる児童は約７割である。 ・既習の漢字、また、促音や拗音等、仮名表記に課題が見られる児童は１割である。	・語句や文章の理解を丁寧に行い、児童が主体的に読解や課題解決を図る機会を適切に設ける。また、児童同士で読みを共有する活動を合わせて行っていくことで、８割以上の児童が正しく文章を読み取れるようにする。 ・丁寧なノート指導を通して自分の間違いを正しく直す機会を設けるとともに、漢字の習熟の確認を毎週定期的に行うことで、８割以上の児童が誤字脱字なく文章を書けるようにすること、漢字のワークテストで十分に成果を出すことを目指す。
算数	１学期に実施した東京ベーシックドリルから、以下の結果となった。 ・文章題の問題場面を捉え、数量関係を図で表すことに課題が見られる。正答率が４２％であった。 ・表やグラフなどの表現処理が十分できず、正確に表すことに課題が見られる。正確に表に表すことができた児童が４７％、グラフに表すことができた児童が４６％といずれも正答率が５割を下回る結果となった。	・問題場面を正確に捉えられるように場面絵を提示したり、クラス全体で問題の重点を押さえた上で、簡単な図などに表す活動を意図的に取り入れ、2学期末実施予定の東京ベーシックドリルBでは正答率８割を目指す。 ・データの数を数える際に、落ちや重なりがないようにマークを付ける指導を行う。また、誤答が無いかをしっかりと見直しする時間を設け、正答率８割を目指す。
理科	・学年のワークテストの結果から、思考・判断・表現は９割程度の得点が取れており、深く考えようとする力が付いてきている。知識・技能は８割程度と思考・判断・表現に比べると低くなっている。 ・問題→予想→計画→実験・観察→結果→考察という流れで学習を進めており、結果から考察する力がやや身に付いてきてはいるものの、問題を見出す力に課題が見られる。	・新規の教科の理科で新しい内容を覚えることが多いため、知識の詰込みにならないように気を付けながら、授業の中で体験・経験しながら覚えられるようにし、ワークテストで９割程度の得点が取れるようにする。 ・問題を見出す力を身に付けるために自然事象への気付きを図るための時間を導入時に取っていく。問題の前に発問などを通して、理科の授業を行っていく上での基礎的な概念の理解を図っていく。８割の児童が自分で問題を見出すことができるようになることを目指す。
社会	・東久留米市の土地の様子、東久留米市の農家や工場ではたらく人たちについて、資料等を通して、約８割の児童が概ね理解した。 ・方位や地図の見方、地図記号等、約８割の児童が正しく理解した。 ・約８割の児童が資料から、必要な情報を適切に読み取れるようになった。約７割の児童は、資料を基にそこから分かることや自分で考えたことを話したり書いたりすることが十分にできた。	以下の手だてをとることで、９割の児童に資料を読み取る力・資料を活用する力の定着を図る。 ・直接見聞きしたり体験したりする活動を効果的に活用し、資料等と合わせて、学習内容に対する児童の理解を深めていけるようにする。 ・グラフタイトルや項目、数値等、丁寧に確かめながら資料を読み取る機会を増やしていくようにする。また、そこから分かること、考えられることを言語化する機会も、スモールステップで増やしていくようにする。